



「夕陽」作者：田中 陽斗（経営学科3年）

東日本大震災により被災された学生に対し、引き続き経済的支援を行っています。

この震災により入学料や授業料の納付が困難となった学生に対して、入学料の免除や授業料の減免を行っています。

ご相談については、事務局学生課までお問い合わせください。

CONTENTS

学長メッセージ・教員著書紹介……………	2
新任教員紹介……………	3
「アバター就活相談室」開始・ トピックス……………	5
公開講座のご案内……………	6
就職戦線最新情報・ キャリアセンターだより……………	7
インフォメーション……………	8



カナダ訪問雑感

釧路公立大学学長 白川 欽 哉

今回は、本学からの留学先の一つであるカナダ・キャピラノ大学に訪問した際に感じたことを綴ってみます。同大学を訪ねたきっかけは、釧路市とカナダ・バーナビーの姉妹都市提携60周年（1965年9月発足）を記念する相互交流事業に参加したことでした。

バーナビーは、ブリティッシュ・コロンビア州にある人口約23万人の都市です（釧路とほぼ同緯度）。同市の西側に隣接する大都市バンクーバーや南西のステイブストンには、19世紀末から20世紀初頭に漁業や、農業、林業・製材業に従事する日本人移民が多く暮らしていたそうです。第二次世界大戦時には、強制収容による抑圧と差別の歴史があり、1949年の選挙権獲得ののちに日系カナダ人の復権と独立性が承認されたとのこと。バーナビーに1992年に設立された日系文化センター・博物館は、日系カナダ人の歴史を辿ることのできる貴重な財産として保護されています。センター敷地内には、「釧路レーン」という小径が友好の証として設けられています。釧路との友好のもう一つの象徴は、標高370メートルのバーナビー・マウンテンにある公園で、そこにはアイヌ彫刻家の床ヌプリさんが製作した木彫りのトーテムポール約50本が立ち並んでいます。公園の一角には「カムイ・ミンタラ」に因んで命名された市営のレストランがあります。バーナビーの歴史のなかに釧路が刻まれていることは嬉しい限りです。

両市の姉妹都市提携は、1988年（本学設立年）に当時の鰯淵市長がバーナビーを表敬訪問した際に、同市にある州立サイモン・フレザー大学との姉妹校提携に関する覚書が交わされたことにつながりました。そして1991年には同大学からの紹介で、バーナビーの北側に位置するノース・バンクーバーの州立キャピラノ大学との提携も進み、3大学の交流が実現しました。同年にはキャピラノ大学への本学学生の語学留学が、1994年にはキャピラノ大学の教員の招聘がスタートし

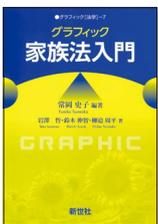
ます。現在の形態とは若干異なっていましたが、両校との協議を経て、現在の留学と教員招聘の形ができあがりました。

それから約30年を経て、改めてキャピラノ大学を訪問し、アカデミック英語学習プログラムである English for Academic Purposes (EAP)の担当の先生方に、大学施設やホームステイ先（軽井沢を思わせる閑静な住宅街。車で30～50分）を案内していただきました。また授業参観の機会もいただき、英語を学ぶことに特化した教育センターの創意工夫に驚かされました。そこには様々な理由でカナダに渡ってきたアジア、アフリカ、中南米、南欧諸国の若者が、それぞれの習熟度に応じて英語を学んでいます。その内容は、大学の学部・学科（映画・演劇、芸術、工学、ビジネス、教育、観光など）の専門教育にも連動しながら年々進化を遂げ、国内外の若者の関心を惹きつけているようです。アテンドして下さった大学関係者の方々からは、釧路の自然環境やアイヌ文化、観光への興味が示され、両大学の学生や教員間の交流拡大に期待が寄せられています。

今回の訪問地は、かつて多様な先住民族（First Nations）が住んでいた空間であり、入植者との対立を経て、相互理解と共生が模索されてきた場所だということも教えてくれました。また、本学の留学生の体験手記でも指摘されていましたが、教育のみならず、政治・経済、行政など社会全体のなかで、多様性と包括性が着実に浸透しているように見受けられました。キャピラノ大学の命名にあたって、スコームッシュ族の部族長であったジョー・キャピラノの名が冠されたこともその現われといえます。

上記のカナダの大学との交流は、その後の韓国や台湾、ロシア語の公用語圏への留学の先駆けとなりました。語学を契機に世界の政治・経済、社会・文化、歴史に興味を持つ学生が増えることを期待しております。

教員著書紹介



共著：岩澤 哲 教授
グラフィック家族法入門

(新世社、2025年5月30日)

4名の大学教員による共著である本書は、経済学・経営学・法学など社会科学全般にわたるテキストを刊行している新世社から、グラフィック [法学] ライブラリの一冊として出版されました。大学の各学部で家族法を初めて学ぶ学生や、家族法に関心をもつ社会人に向けた入門テキストで、読み通しやすいコンパクトな分量と、左ページに本文解説、右ページに図表やコラム等を配置したレイアウトが特徴となっています。

近年は家族法の分野における法改正が相次いでおり、社会の関心も高まっています。本書が現在の家族法の立ち位置を把握するための一助となれば、執筆者の一人として嬉しく思います。



著：飯島 直樹 講師
**天皇の軍事輔弼体制
一元帥と戦争指導の政治史**

(名古屋大学出版会、2025年4月11日)

軍部の政治的台頭—中高の日本史の授業で一度は聞いたことのあるワードでしょう。昭和期の軍部が満州事変や二・二六事件などのクーデターを経て、政党内閣から政治の実権を奪い、最終的に太平洋戦争に突き進んだという、「政府・政党VS軍部」の構図で皆さん学んできたと思います。では、軍の大元帥=最高司令官だった天皇はなぜ軍部の暴走を止められなかったのでしょうか。

昭和天皇が戦争に消極的だったことは有名な話です。一方、軍隊は上下関係や規律に最も厳しい組織というイメージがあると思います。その軍部が、なぜ自らの上官である昭和天皇の意向を無視して「戦争への道」に突き進んだのでしょうか。本書はこの疑問を「政府・政党VS軍部」ではなく、「天皇VS軍部」という構図から解き明かしました。日本近代史や戦争に興味ある方にぜひお読みいただきたいです。



新任のご挨拶

准教授 きしだ やすのり
岸田 泰則

本年度4月に着任した岸田泰則です。経営管理論、人的資源管理論、企業論、企業システム入門の授業を担当しております。専門領域は組織行動論で、高齢雇用者のジョブ・クラフティングを研究しております。他に、地域雇用や地域経営の研究もしております。

前職では、重工業メーカーの営業、経営管理を担当しておりました。釧路には30年前から出張でよく来ておりました。釧路港の港湾荷役機械のほとんどは私が携わったものです。

私は、15年前から勤務の傍ら社会人大学院へ通い、その結果、本学の教員へキャリア・チェンジしたわけです。実は、修士への入学志願書を社会人大学院へ送ったのが、出張中の釧路の郵便局からでした。私の研究者人生は釧路から始まりました。

釧路に来て驚いたことが2つあります。第1に、授業の始業・終業のチャイムが鳴らないことです。他大学にはなかなか例を見ないことで、学生が自律しているということの証かなと思います。第2に、エゾシカがキャンパス内を闊歩していることです。キャンパスにお越しになれるエゾシカさんは、釧路市立動物園で飼われているエゾシカよりも一回り大きな鹿です。夜道で遭遇すると正直、怖いのですが、鹿に叱っても仕方がないことだと諦めております。出身は、苫小牧の隣にある安平町早来ですが、子どものころ鹿を見かけることはありませんでしたので、このところ鹿は爆増しているのだと思います。人は少子化ですが、鹿は多子化ですね。



新任のご挨拶

准教授 もう てつお
孟 哲男

本年度より着任しました孟哲男です。アジア経済論、韓国語などを担当しております。中国・延辺朝鮮族自治州の出身で、私にとって母語は朝鮮語（韓国語）と中国語です。大学卒業後に来日してから20年以上が経ち、日本の大学で研究・教育活動に取り組んできました。このたびご縁があり、釧路の地で新たな一歩を踏み出すこととなりました。

専門分野は中国経済、アジア経済です。経済成長の持続性、少子高齢化の影響、地域経済の変容、労働市場の変化、格差問題などを主な研究テーマとし、とくに統計データやアンケート調査を活用した実証的な研究に関心

を持っています。

アジア経済論では、東アジア・東南アジアを中心とした各国の経済発展の過程と社会的影響、国際的な経済連携、日本企業のグローバル展開などを扱っています。少子高齢化や国内市場の縮小が進むなか、アジアを中心に海外展開を図る日本企業が増えており、グローバルに活躍できる人材の確保が重要視されています。学生の皆さんにも、進出先の経済状況や文化など、広い視野からビジネス環境への理解を深めてもらいたいと思います。

専門演習では、経済学の論点に加えて、統計データや政策動向など最新の情報を取り入れながら、学生が主体的に考え、議論できる学びの場づくりを心がけています。

韓国語の授業では実用性を重視し、発音・会話の練習に加え、映画や映像資料の活用などを通じて、実践的な授業を展開していきたいと考えています。

豊かな自然と地域資源に恵まれた釧路で、学生の皆さんとともに学び、考え、成長していけることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



新任のご挨拶

講師 うえにし はるや
上西 晴也

本年度より着任しました上西晴也です。私の研究分野である日本経済史は、経済学の様々な分野の方法・知見と、昔の人が残した史料を読み解く歴史学の方法・知見とを組み合わせることで、私たちが暮らしている日本の経済社会がどのようにして生まれ、変化してきたかを明らかにする学問です。私はその中でも、戦前の日本で畜産・酪農業がどのように発展したかを研究してきました。日本の畜産・酪農業の中で重要かつ固有の地位を築いて

いる釧路地域で、これから教育・研究に携われることをとても楽しみにしています。

大学に入学した時の私は、日本経済史という分野の存在すら知らず、最初は生物学を学ぼうと考えていました。専攻分野を変え、大学教員となるまでには、留年を繰り返したり進路に悩んだりしたこともあります。しかしその過程で、異なる分野の学問や、異なる進路に進む人たちと大学の中で接した経験は、昔の社会をさまざまな側面から捉える必要がある歴史研究に取り組む上で、自分の中の貴重な財産になっています。

大学で学べる学問は多岐にわたっており、その中には、今は何の役に立つかわからなくとも、実は人生の糧となっていく知恵や経験がたくさん詰まっていると考えています。私も、釧路公立大学に学ぶ皆さんの人生の糧となるものを提供できるよう、頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



新任のご挨拶

講師 なかしま あやか
中嶋 彩佳

本年度より着任しました中嶋彩佳と申します。私は大阪の大学・大学院を卒業・修了しましたが、中学生・高校生時代を札幌近郊で過ごしました。今回ご縁に恵まれ、北海道に戻ってこれたことを大変嬉しく思っています。

私の専門はイギリス文学で、特に第二次世界大戦以降に発表された小説と映画を中心に研究活動を行っています。博士論文では、2017年にノーベル文学賞を受賞した日系イギリス人作家カズオ・イシグロの小説を取り上げ

ました。イシグロの小説の多くは、主人公でもある一人称の語り手の主観的な視点と曖昧な記憶を通して描かれており、彼らは「信頼できない語り手」と呼ばれています。「教養演習」では、イシグロをはじめとした現代イギリス作家の小説を講読する予定です。

本学では、イギリス文学・映画に関する授業の他に英語も担当しています。今では英語で書かれた小説を読み、論文を英語で執筆することにも抵抗はありませんが、実は、私が高校生だった頃、英語は最も苦手な科目でした。大学進学の際に英語を真剣に勉強しようと決心し、英米文学・英語学専修に入りましたが、周りの学生は英語を得意とする人ばかりで、入学当初は授業についていくのに大変苦労しました。英語に限らず、語学の習得に近道はないと思います。以前の私のように英語に苦手意識を持っている学生もいるかと思いますが、私自身の経験を活かして、分かり易い授業を提供できたらと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



新任のご挨拶

講師 やまなか じんきち
山中 仁吉

本年度より着任いたしました山中仁吉と申します。私は小樽で生まれ、札幌で大学・大学院と長い学生時代を過ごしてきました。北海道出身でありながら、これまで道東を訪れたことがありませんでしたが、今回ご縁に恵まれて、釧路にやってきました。道央しか知らなかった私にとって、釧路の食べ物や自然、気候が新鮮で毎日楽しい日々を過ごしております。そして、本号が発行される頃には、初めての自家用車が納車されている予定です。秋からは釧路だけでなく道東地域を見て回ろうと

計画しており、今から待ち遠しくてなりません。

私の専門は政治学です。本学では「政治学」「行政学」「地方自治論」など政治学系の専門科目を担当します。しかし、狭義の専門として政治学の中でも日本政治史という分野の研究をしており、特に戦前の女性参政権運動について調べてきました。一見すると、政治学に関係ないのではないかとと思われるかもしれませんが、確かに歴史的な事実を発掘する側面もあります。しかし、女性参政権運動とは、利益団体の活動であり、民主化運動であり、住民運動であり、実は政治学の分析対象として格好の素材なのです。このように私は、政治学から歴史を見る、あるいは歴史学から政治を見てきました。今後は本学とご縁を奇貨として、道東の歴史についても理解を深め、今日の釧路の政治や行政にも向き合っていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いたします。



新任のご挨拶

講師 なかの りょうた
中野 凌太

本年度4月に着任しました中野凌太です。専門はマクロ経済学、特に経済成長について研究しています。

日本は90年代後半のバブル崩壊以降、長期にわたって経済が停滞しています。この30年での平均経済成長率は1%を下回っており、国の経済規模を示す国内総生産(GDP)は2023年にドイツに追い抜かれ、世界4位に転落しました。とはいえ、今日の私たちが比較的豊かな生活を享受できるのは、過去の経済成長の積み重ねがあったからです。しかし、今後も低成長が続くと、国際的な

競争力を失い、世界からおいていかれることとなります。

では、日本が長期的に停滞している原因は何でしょうか。また、持続的な成長を実現するには何が必要なのでしょうか。多くの経済学者がこの問いに答えを出そうと日々研究に取り組んでいますが、決定的な答えは見つかっていません。他人事のように思えるかもしれませんが、こうした課題は私たちの日々の生活に深くかかわる問題であり、一人ひとりが向き合っていくことが大切だと私は考えます。

また日本は少子高齢化や社会保障費の増大、政府債務の拡大など多くの経済的課題を抱えています。皆さんがこれから大学で学ぶことは、単なる知識の習得にとどまらず、こうした現実の社会問題に対して自ら考え、将来どのように向き合っていくのかを模索する貴重な機会となります。講義やゼミを通じて、学生の皆さんの学びをサポートしていけたらと思います。これからどうぞよろしくお願いたします。



新任のご挨拶

講師 ^{ますやま} 増山 ^{りょうめい} 亮

本年度より講師として着任いたしました増山亮と申します。釧路公立大学は、私にとって教員としての初の勤務先であり、そのような重要な第一歩をこの大学で踏み出せたことを大変光栄に感じております。着任以来、教育・研究の両面において極めて充実した環境が整っていることを実感しており、この環境の中で日々研鑽を積み上げることができることに感謝しています。

私の専門は応用ミクロ経済学（産業組織論）です。経済学の理論モデルと現実の経済現象とのギャップを埋め

ることを目的に、理論分析を通じて、実際の企業行動や政策課題に対する具体的な示唆を得ることを目指して研究を進めています。特に近年は、情報技術の進展によって企業行動がオンライン空間で多様化している点に注目し、それを的確に捉える新たな理論モデルの構築に取り組んでいます。

このように、私の研究関心は経済学を現実社会に接続することであり、この姿勢は教育の場にも反映させたいと考えています。例えば、ゼミ活動ではフィールドワークを積極的に取り入れ、学生が自ら観察・体験した事象を経済学の視点から分析・考察する機会を提供します。こうした教育活動を通じて、学生の皆さんには、経済学と現実社会の両方に関心を持ってもらえればと考えています。そして将来的には、複雑な社会課題を前にしても、物事を多角的に捉え、論理的に整理・分析し、自分自身で考え抜く力を身につけてほしいと願っています。

「アバター就活相談室」開始

今年度より、株式会社パソナが運営する「アバター就活相談室」を全国の大学で初めて導入しました。

本学学生であれば学年を問わず無料で利用可能となっており、全国どこにいてもPCやスマホでアクセスし、離れた場所にいる「アバター」(国家資格キャリアコンサルタント)からカウンセリング等の就職活動支援を受けられます。面接練習などでは顔出しで対応する「人」を選択することもできるので、より実践的な対策が可能です。利用した学生からは「相手の顔が見えない分緊張せずに気軽に話すことができた」と好評です。



トピックス

「中央大学、釧路公立大学、釧路市及び鶴居村の包括連携に関する協定」の締結について

令和7年8月13日（水）に、中央大学、釧路公立大学、釧路市、鶴居村の4者間で包括連携協定を締結しました。この協定は、教育及び研究における連携を基礎として、地域課題に対応する共同研究や学生の地域参画活動、教育資源の相互活用など、幅広い連携を推進することを目的としています。

今後は、本協定を基盤として、学生・教員・行政・地域住民が一体となって、地域共創を目指した活動を予定しています。



釧路信用金庫様よりご寄附をいただきました

釧路信用金庫創業100周年を記念し、令和7年7月8日（火）に中央大学との連携事業や人材育成事業への活用を目的として、100万円のご寄附をいただきました。



令和7年度釧路公立大学公開講座

共通テーマ「地域の未来—今求められるもの—」

■永山 ゆかり 教授

講演テーマ 地域の記憶を継承する—カムチャッカ先住民の語りから見る日本・ソ連・ロシア

概要 千島列島の北に位置するカムチャッカ半島は、かつては露領漁業の中心地であり、多くの日本人がサケ・マス漁に従事していました。しかし、当時日本人と先住民との交流があったことはあまり知られていません。また、カムチャッカ先住民の生活や文化は、近代化の名の下に大きな変革を強いられましたが、ロシア史研究ではほとんど扱われていません。本講座では、フィールドワークで得られた語りを通して、先住民の視点からカムチャッカの歴史を紹介し、地域の記憶や歴史の継承について考えます。

■大澤 理沙 教授

講演テーマ なくてはならないのに、見えにくいのはなぜ?—ケアから考える社会のしくみ

概要 子育てや介護、家事などのケアは、私たちの命や暮らしを支えるうえで欠かせない営みです。しかし、その価値は十分に認識されておらず、担い手も正当に評価されているとは言えません。ある人はケアを意識することなく日々を送り、またある人はケアに追われ心身をすり減らしている——こうした状況は、ケアに依存しながらも、それを支える仕組みを持たない現代の経済システムの矛盾を映し出しています。本講座では、これまでのケアをめぐる議論をふまえ、ケアの現状と課題についてお話しします。

■岡田 登 准教授

講演テーマ 農村はどこに向かっているのか

概要 釧路市の街を少し離れると広大な酪農地域が広がっています。このような農村は都市の影響を受けながら、その役割や意義を徐々に変化させています。また、農村的現象は農村だけに存在するわけではなく、都市内部に出現することもあります。この講座では農村と都市の関係性から、農村が今どこに向かっているのかを解説し、農や食を中心とした地域づくりの方策を考えます。

■畠山 啓 准教授

講演テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か?～釧路湿原における太陽光パネル設置を考える～

概要 現在企業は経済的責任(利益を上げる)、法的責任(法律を守る)だけではなく、3つ目の責任として社会的責任が求められています。また釧路湿原周辺では多くの太陽光パネルが設置され、貴重な景観や生態系への影響が懸念されています。では太陽光パネル設置企業は上記の3つの責任を果たしていると言えるのでしょうか。本講座では企業の社会的責任（CSR）とは何なのかを踏まえたうえで、釧路湿原における太陽光パネルの設置を企業の社会的責任（CSR）の観点から考えていきます。

■釧路公立大学公開講座 1回目

日時	10月1日(水) 18:30~20:00
場所	釧路公立大学 1階 大講義室1
講師	大澤 理沙 教授
演題	なくてはならないのに、見えにくいのはなぜ?—ケアから考える社会のしくみ

■釧路公立大学公開講座 2回目

日時	10月8日(水) 18:30~20:00
場所	釧路公立大学 1階 大講義室1
講師	畠山 啓 准教授
演題	企業の社会的責任（CSR）とは何か?～釧路湿原における太陽光パネル設置を考える～

■釧路公立大学公開講座 3回目

日時	10月15日(水) 18:30~20:00
場所	釧路公立大学 1階 大講義室1
講師	岡田 登 准教授
演題	農村はどこに向かっているのか

■釧路公立大学公開講座 4回目

日時	10月22日(水) 18:30~20:00
場所	釧路公立大学 1階 大講義室1
講師	永山 ゆかり 教授
演題	地域の記憶を継承する—カムチャッカ先住民の語りから見る日本・ソ連・ロシア

■釧路公立大学公開講座 5回目

日時	10月24日(金) 18:30~20:00
場所	釧路市生涯学習センター 8階 会議室802
講師	大澤 理沙 教授
演題	なくてはならないのに、見えにくいのはなぜ?—ケアから考える社会のしくみ

・大学会場：釧路公立大学 1階 大講義室1
釧路市芦野4丁目1番1号

・釧路市会場：釧路市生涯学習センター
8階 会議室802
釧路市幣舞町4番28号

・受講無料

・対象 高校生以上

・受講方法 お申込みの必要はありません。

・お問合わせ 釧路公立大学 総務課

就 職 戦 線 最 新 情 報

卒業予定者の内定先リスト (現在の内定状況) 2025/9/16

- 農林漁業** 院庄林業
- 建設業** 一条工務店、オーテック、近藤工務店、システムハウスアーランドシー、住居時間、太平洋設備、T T K、西松建設、日本空調北陸、ミサワホーム北海道、宮坂建設工業
- 製造業** 大栄産業、豊田機工、ナインキ、ホクレン包材、三浦工業、ワコール
- 卸売・小売業 (卸売業)** 石垣電材、NX商事、エプロン、スズケン、大丸、T S C、日本アクセス北海道、パナソニック マーケティング ジャパン、東日本フード、ほくやく、ホシザキ北海道、ミツ輪商会、モロオ、吉田産業
- 卸売・小売業 (小売業)** アインホールディングス、いーふらん、I D O M、オンデーズ、クスリのアオキ、クレタ、ゲオホールディングス、コスモス薬品、スズキ自販北海道、セコマ、ダイイチ、大黒天物産、ニトリ、日本ニューホランド、PACKBOOK、ビックカメラ、マックスガイ、メガネトップ、薬王堂、ヤマナカ、ラウディ、La Natureve、リリアアブル
- 金融・保険業** あいおいニッセイ同和損害保険、青い森信用金庫、青森みちのく銀行、旭川信用金庫、網走信用金庫、帯広信用金庫、北空知信用金庫、釧路信用金庫、損害保険ジャパン、大地みらい信用金庫、中国銀行、東北銀行、苫小牧信用金庫、日本生命保険、フォーシース、北都銀行、北洋銀行、北海道銀行、室蘭信用金庫、盛岡信用金庫、稚内信用金庫
- 電力・ガス** エネサンス東北、カネコ商会、北ガスジェネックス、釧路ガス、トーホクガス
- 運輸・情報通信業** アール・エム、アイエックス・ナレッジ、H I Sホールディングス、エスピック、N T Tデータ北海道、空港情報通信、J I G-S A W、スリーエス、テクノプロ、日本郵便 北海道支社、日本アイ・ビー・エム デジタルサービス、ハイマックス、ベルパーク、北海道丸和ロジスティクス、北海道旅客鉄道、三菱ケミカル物流、ミツ輪運輸、ロジネットジャパン
- 不動産業** NST、カチタス、共立メンテナンス、大和ライフリンク、HOPE HOUSE
- サービス業** 旭川医科大学、walk-on、えちご中越農業協同組合、音更町農業協同組合、カナモト、北新瀧農業協同組合、札幌商工会議所、札幌北洋リース、サツラク農業協同組合、スクールT O M A S、大学生協事業連合北海道地区、全日嘗、大樹町農業協同組合、大広、太平洋総合コンサルタント、長治観光、津別町農業協同組合、TSACE、D-Standing、中札内村農業協同組合、ニトリパブリック、日本年金機構、BuySell Technologies、榛南自動車学校、函館市亀田農業協同組合、ビッグボーイジャパン、ふたば税理士法人、ホクレン農業協同組合連合会、星野リゾート、北海道アルバイト情報社、北海道漁業協同組

合連会、北海道大学、北海道農業共済組合、北海道農業公社、マイナビ、マルハン、芽室町農業協同組合、夢真、Libroth、レバレジーズ
 ■**国家公務** 厚生労働省 (北海道労働局)、国税庁 (関東信越国税局)
 ■**地方公務** 青森県庁、旭川市役所、一関市役所、茨城県庁 (警察本部)、北上市役所、釧路市役所、五所川原市役所、札幌市役所、十和田市役所、中標津町役場、北海道警察、北海道庁、山形市役所

令和7年度卒業予定者の就職状況 2025/9/16現在

1. 求人件数及び内定状況

区分	求人件数	卒業(予定)数	就職希望者	内定者数	内定率(%)	未定者数
男子	-	219	196	143	73.0	53
女子	-	83	80	56	70.0	24
共用	584	-	-	-	-	-
合計	584	302	276	199	72.1	77

2. 進路別内定状況

進路	男子	女子	計	割合
民間	125	47	172	86.4
公務	17	9	26	13.1
教員			0	0.0
目営	1		1	0.5
計	143	56	199	100.0
進学			0	
無業	23	3	26	
未定	53	24	77	
合計	219	83	302	

3. 産業別地域別内定状況

業種	釧路管内		北海道内		北海道外		計		合計	割合
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
製造	1	2	1	2	9	5	11	9	20	10.1
卸売・小売		3	11	4	19	1	30	8	38	19.1
金融・保険	5		19	5	6	5	30	10	40	20.1
運輸・情報	3		4	4	10	1	17	5	22	11.1
電力・ガス		1	1		3		4	1	5	2.5
サービス	2		14	9	19	5	35	14	49	24.6
公務	3	2	7	5	6	2	16	9	25	12.6
計	14	8	57	29	72	19	143	56	199	100.0
合計	22		86		91		199			
割合	11.1%		43.2%		45.7%		100.0%			

キ | ャ | リ | ア | セ | ン | タ | ー | だ | よ | り

その昔、日本中を沸かせた長嶋茂雄。来月にはお別れの会も開かれるとのこと。

昭和51年11月、釧路市の十條製紙体育館にも、長嶋茂雄の姿がありました。背番号90の眩しかったこと…。

「自分のもっているもの、そのすべてを出し切ったら悔いのない一生になるはず。そのために社会に出たら自分をどう表現したらいのか。僕はそれを学ぶのが学生生活だと思います。自分を甘やかさないで何事にも積極的に取り組んで社会に出たら示すものをたくさん蓄えてください。」長嶋茂雄が母校の後輩たちに贈ったこのメッセージは、本学の学生達にもそっと手渡したい言葉でもあります。

自分を甘やかさずに挑戦し続けた長嶋茂雄の根っこは「燃える心とたゆまぬ努力」です。

いま、この“根っこ”のカケラを再び握りしめて、秋空を見上げておられます。

PICKUP

業界研究会：10月28日(火)～11月12日(水)
道内外から約150社の企業に参加する学内合同説明会で、今年度より時期を前倒して実施をします。例年、就活が始まる3年生を中心に、次年度のインターンシップ先を考える機会として1、2年生も参加をするイベントです。

平日は授業が終わった18：10から、土曜日は日中の時間帯での実施ですが、例年、このイベントで出会った企業に就職する学生が多数おられますので、積極的に活用してください。

後期に実施する就職対策事業 (予定)

9月	一般常識対策模擬試験
10月	履歴書対策講座・添削 本選考対策エントリーシート講座・添削 面接対策講座 (基礎編) 企業訪問報告会 2年生のための就活プレ講座 TOEIC IP 試験 面接対策講座 (応用編) 業界研究会
11月	WEB SPI 受検会 模擬面接 (集団) 模擬面接 (個人) 最終面接突破セミナー LINEオープンチャットを用いた就活匿名大質問会 簿記検定試験
12月	公務員試験説明会 就活直前対策ESブラッシュアップ講座 釧路大OBのマイナビ編集長が語る! 今知るべき就活のコツ
1月	2年生のためのインターンシップ基礎講座
2月	簿記検定試験

※就職活動時期の早期化を踏まえ、今年度から時期を前倒して実施。

インフォメーション

K.P.U. フェスタ2025

K.P.U.フェスタ実行委員会委員長
経済学科3年 野村 晨矢

釧路の地にも秋がやってきて、大学祭の季節となりました。

第25回となります「K.P.U.フェスタ」は、去年より再誕を目標に掲げ、今年はより規模を大きく、去年よりも盛り上がる学祭を目指し、露店やサークルブースの参加団体も積極的に参加を募り、協賛企業も去年以上に多くの企業にご協賛いただけるよう積極的に協賛活動を行うなど、委員会メンバーもより多くの頼もしい仲間たちとともに、一同一層精進してまいりました。

今年の「K.P.U.フェスタ」は「晴」をテーマに、晴れやかな秋空のような明るく爽やかで盛り上がるようなものにしようと心がけています。当日の天気

はまだ分からず、去年は生憎の大雨でしたが、今年は例え雨模様であろうと来て頂いた皆様の心が晴れやかになるような学祭になると幸いです。

まだまだ再スタートしたばかりではございますが、これからも成長を続ける「K.P.U.フェスタ」を、どうか温かく見守っていただければと思います。

最後になりましたが、大学祭を開催するにあたり協賛・広告でご協力いただいた諸社の方々、不手際な実行委員に様々な援助、ご支援いただいた大学関係者の方々、何より未熟な自分を助け、協力してくれた委員会のメンバー一同に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



2025年度後期授業料について

後期授業料の納入期限は10月31日(金)までとなっております。ATMや金融機関、インターネットバンキングでの口座振込または金融機関窓口にて同封の「振込依頼書」によりお振込みください。授業料の分納(延納)を希望される場合は、右記のQRコードから申請してください。

【申請期限】令和7年9月24日(水)～令和7年10月20日(月)

また、令和7年4月より多子世帯(子ども3人以上を扶養する世帯)への大学等の授業料等無償化が拡充されました。減免を受けるためには給付奨学金の

申込が必要となりますので、前期に申請をしていない方は申込期限内に学生課窓口にて申請を行ってください。

学力要件や扶養状況等により支援対象外となる場合もありますのでご留意ください。

●対象となる世帯(例)

※令和6年12月31日現在

(対象外)

	第1子大学進学	第1・2子大学進学	第1子が卒業後就職
社会人		他大学で減免を受けている場合も対象	
大学生			
高校生以下			

表紙作品解説

「夕陽」

作者：経営学科3年 田中 陽斗

この絵は、釧路を象徴するタンチョウが夕陽を背景に、光を浴びながら大空を舞う姿を描いたものです。風景には、私が釧路で過ごした日々で印象に残った要素を落とし込みました。晴れた日にうっすらと遠くに見える山々のシルエット、視界が鮮やかなオレンジ色に染まる美しい夕焼け、海に映える光と街並みとどこか感じる静けさ。そうした情景を拙いながらも表現し、私自身の心に残る釧路の姿を形にしました。

釧路公立大学だより 第72号
2025年(令和7年)10月1日発行

◎発行元

釧路公立大学

〒085-8585 釧路市芦野4丁目1番1号

TEL 0154-37-3211

FAX 0154-37-3287

経営企画課: TEL 0154-37-5089

URL: <https://www.kushiro-pu.ac.jp/>

◎発行日

毎年2回(4月1日、10月1日)